

代表取締役社長からのメッセージ

Top Message



2024年は、元日に能登半島地震が発生し、歴史上稀にみる大変な一年の始まりとなりました。半年が経過した今でも、多くの方が不自由な生活を余儀なくされております。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ジェネリック医薬品は、政府による使用促進策もあり、数量ベースでは医療用医薬品全体の約半数を占め、今や国民の医療に欠かせないものとなっております。低価格で品質が確保されたジェネリック医薬品が広く安定的に供給されることが、国民に良質な医療を提供する観点から強く求められている状況にあります。

このようにジェネリック医薬品の重要性が増している中、相次ぎ発生したジェネリック医薬品メーカーによる不正事案に端を発した品質問題や、これに起因した医療用医薬品の安定供給問題は、依然として収束しておらず、患者様、医療関係者、ステークホルダーの皆様にご心配とご迷惑をおかけする状況が続いております。そのような中ではじめた「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会（2022年8月～2023年6月）」の議論を受けて新設された「後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会（2023年7月

もっと飲みやすく、ずっと使いやすく
人々の健康と幸福を目指し、
製剤技術で新しい価値の追及を続けてまいります。



～2024年5月）は短期間に13回開催されました。私は日本ジェネリック製薬協会の会長として計3回の会議に参加し、業界を代表して意見を述べました。2024年5月にはその報告書がとりまとめられ、現在はその施策の実現に向けた新たなステージに移行しつつあります。この間に状況を少しでも改善すべく、当社としては限定出荷の解除に向けた増産体制の構築、生産の効率化、情報のタイムリーな開示等に全力で取り組んでまいりました。並行して、品質保証の管理体制を再確認すると共に、コンプライアンス・ガバナンス体制をより強固なものにするべく、社内諸制度の見直しや全従業員を対象としたコンプライアンスに関する定期研修などの取り組みも、継続して行っております。また、注射剤の新たな製造拠点として、昨年7月に竣工した埼玉県加須市にある北埼玉工場2号棟では、一日も早い本格稼働に向け急ピッチで準備を進めています。

前述の日本ジェネリック製薬協会会長ですが、本年5月末をもって2年の任期を無事に満了することが出来ました。これもひとえに、厚生労働省はじめ、多くの関係者の皆様のご指導、温かいご支援とお力添えの賜物であり、心より御礼申し上げます。今後も副会長として、引き続き会員会社の皆様と共に安定供給に向けた取り組みを推進してまいります。

当社は、「研究開発型企業として、常に技術の向上を図り、独創的な製品を開発し、高品質の製品を適正に供給することにより、人々の健康に貢献し、社会的信用を確保するとともに、会社の発展と社員の幸福および協力者の共栄を求めて事業を進める」ことを経営理念に掲げ、独創的なジェネリック医薬品を開発し、高品質の製品を供給するメーカーとして今日まで成長を遂げてまいりました。2028年には創立133年、設立100周年を迎えます。私たちは役員・社員一丸となり、現在の激変する環境を飛躍の好機と捉え、今こそ、あらためてこの理念の意味を再認識し、これまで長年培ってきた経験とステークホルダーの皆様の信頼を力に、ジェネリック医薬品全体の信頼回復に貢献してまいりたいと存じます。

また、環境への取り組みや働きやすい職場づくり等の活動を全社で推進、展開してまいります。

各本部より選抜されたTAGチームは、現在4期目となりました。初期のメンバーが主体となって進めた取り組みは、形を変え全社活動へと発展したのもあり、地域・社会に向けた活動として継続しています。「TAG」というチーム名には、プロレスのタッグマッチのように「タッチして交代する、引き継ぐ」「協力して事にあたる」という意味が込められています。発想の転換や多様なアイデアが生まれる機会を活かし、今後もより多くのパートナーと共に歩みを進めてまいります。

高田製薬は経営理念の実現を通じて、企業価値の向上とサステナブルな社会への貢献を目指してまいります。

代表取締役社長

高田 浩樹